

# 令和5年度 千葉市 英語教育改善プラン

## 目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、聞くこと、話すこと（\*聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと）の言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地（\*基礎）となる資質・能力の育成を目指して、授業の工夫改善を図る。（\* ）は高学年

## 1. 現状

### 改善が進んだ点

- ①小・中学校間で、指導方法等についての検討会、授業参観後の研究討議、中学校教員による小学校での授業実践など、交流・連携を図る中学校区の割合が上昇した。(R3:70%→R4:83%)
- ②学習指導要領の評価、特に思考力・判断力・表現力の理解が深まり、パフォーマンス評価の実践が積み重なりつつある。(実施回数R3:1248回→R4:1593回)

### 未だ改善が必要な点

- ①「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標を設定している学校が増えていない。(R3:48校→R4:42校)
- ②ICT活用が進んでいるが遠隔地の教師、ALTや児童とのICTを活用した交流が少ない。(R3:11校→R4:15校)

## 2. 分析

- ①実際に対面で交流をするとともに、1人1台端末を活用した情報交換を呼びかけ、ICTを使った交流や市全体の情報交換掲示板の運用や中学校区においての小中の教材の共有を行った。
- ②教科主任（年2回）を対象に、具体的な評価の方法を演習形式で周知した。情報交換掲示板等で好事例を周知した。

- ①各種研修会で、「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標を設定することの意義を十分に周知できていない。
- ②実践例がまだ積み重なってなく、実践のイメージが乏しく実施に対しての心理的ハードルが高いことが予想される。

## 3. 施策・事業

- ①小中連携の推進
  - ・小中で同一のALTを派遣するモデル校を設ける。
  - ・多くの先生に情報交換掲示板の参加を促し、必要な情報が得られるように掲示板で情報発信をしていく。
  - ・中学校区でGoogle Classroomを開設を促し、情報交換を活性化させる。
  - ・小中連携調査（年2回）に、1人1台端末を活用した連携の実態を把握できる項目を入れる。
- ②研修の充実
  - ・各種研修において、パフォーマンス評価の内容を継続的に取り入る。指導案やルーブリックのモデルを提示し、理解を深めるとともに、パフォーマンス評価実践を積み重ね事例集としてまとめる。
  - ①各種研修で学習到達目標を設定している学校の取組事例を紹介し効果を周知する。また中学校区の「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の設定の取組み状況を共通理解する研修の場を設ける。
  - ②交流モデル校を5校選定し、各種研修でICTを活用した交流の好事例を紹介する。
  - ☆新規採用者の選考において、中学校英語教諭免許状所有者を積極的に採用する取組を継続して行っていく。

# 令和5年度 千葉市 英語教育改善プラン

**目標** CEFR A1レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒の割合を60%以上にする。

## 1. 現状

改善が進んだ点

①小中学校間での連携が盛んになっている。R4年度情報交換を行った学校は54校中47校、小中間での相互授業や研究協議等の交流を行った学校は17校に上った。  
②スピーキングテストとライティングテストの両方を行った学校の割合が高まった。  
(R3: 83%,R4:84%)

未だ改善が必要な点

①「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の設定の割合が未だ100%に達しない。  
(R3:92%,R4:84%)  
②ICT活用が進んでいるが遠隔地の生徒や教師、ALTとのICTを活用した交流が行われていない。  
(R3:7%,R4:4%)

## 2. 分析

①1人1台端末を有効に活用し、教材や資料などの情報共有やリモートでの話し合いが行われるようになってきている。

②適切に目的・場面・状況を設定し、パフォーマンステストで思考・判断・表現の観点を見取ることが広まった。

①「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の効果が十分に理解されていないため、作成されていない学校がある。

②実践のイメージが乏しく実施に対しての心理的ハードルが高いことが予想される。

## 3. 施策・事業

①教科等主任研修会にて、中学校区ごとに小中教員が交流し、小中それぞれの指導実践について把握し、それぞれを円滑につなぐための方策について話し合ったり、1人1台端末を活用したりして教材や資料等の共有を行う。

②主任会ブロック研修会では、授業でのよい指導事例を共有し、参考にできるものを実践していくことを奨励する。指導案について、単元の目標や評価について考察し、見識を深める。

①主任会ブロック研修会では、「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標を活用することの効果について研修する。また、リストの見直し、改善に当たっては、CEFR A1レベルの力を持っているかを客観的に判定できるテストの結果を参考にする。

②交流モデル校を選定し、各種研修でICTを活用した交流の好事例を紹介する。

# 令和5年度 千葉市 英語教育改善プラン

## 目標

グローバルな視野で活躍するために必要な資質・能力を育成するために、英語を通じて、相手の考えを理解し、自分の考えを相手に分かりやすく伝えようとする姿勢を身に付ける。  
CEFRB1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合を80%にする。

## 1. 現状

### 改善が進んだ点

- ① 中高で連携して、英語を活用しての探究的な学びや授業内外での英語使用（特にスピーキング）の場面を増やす取組みを推進  
（R5 新規事業としてオンライン英会話導入 外国人英語講師を追加配置）
- ② 海外連携校や交流校との国際交流事業を推進  
（R5 新規海外（韓国）連携校 1 校を開拓）

### 未だ改善が必要な点

- ① 授業と評価の一体化（スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合83%）
- ② 授業の質の向上（ICTの使用に関するアンケートで使用率50%を超える項目が20%）

## 2. 分析

- ① オンラインでの国際交流実績の積み重ねにより、効果的なオンライン交流ができるようになった
- ② ・新規事業としてSSH重点枠「海外連携」を立ち上げたことで、目標をもって計画を進められるようになった  
・市立高校2校の協力体制が整備運用されるようになってきた

① 目標を共有し成果を上げる体制づくりに課題

② 教員の指導力向上に向けた具体策がない

## 3. 施策・事業

① ICTの活用や、リアルな国際交流を通じた授業外の活動（オンライン英会話やオンライン共同研究、海外研修、国際交流活動）を推進することで、生徒・教員の動機づけを行う。

- ② ・SSH事業における**海外共同研究**を進める  
（R5 新規海外（韓国）連携校 1 校）  
・交流実績のあるカナダ・アメリカの姉妹校との交流を再開し、さらなる充実を図る  
・英語圏以外の国との文化交流を進める

★**リーダーシップを発揮できるコアな職員の採用・育成と若手職員の育成のために、市の施策と人事を有機的にリンクさせて、中・長期的な視野に立った市立高校の学校体制を構築する**

- ① ・指導主事訪問の再開  
・中核的な教員を育成するための研修（R5先導的なオンライン研修実証研究事業2名推薦）
- ② ・校内研修の充実  
・ICT使用の好事例をまとめて市立高校で共有  
・CAN-DOリストと観点別評価法の改善